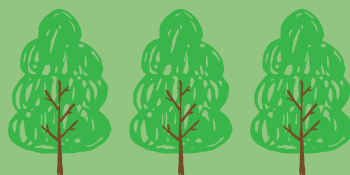


第3章

基本構想

1. 基本理念
2. 村が目指す生涯学習社会
3. 基本方針
4. 施策展開分野の設定と体系図



第3章 基本構想

1 基本理念

気づきから 学び・つながり 未来を築く ～地域・学校・行政の協働による生涯学習社会の実現へ～

生涯学習にゴールはありません。しかし私たちは、その見えないゴールに向かって常に学び続けており、ずっと歩き続ける・求め続ける姿が生涯学習であると考えます。村民一人ひとりが生涯学習に親しみ、そして、村の生涯学習の推進力を高めていくうえで基本となるものは何か。生涯学習を通じて、村の良さや村に生まれ育ってきたことへの誇り、そして、自信を持つためにはどうすればよいか。それは、村民が村の資源に【気づく】ことが根幹であると考えました。

北塩原村には風光明媚で雄大な自然があります。豊かな生活文化や歴史資源があります。美しい田畑で生産される農産物、心が込もったおいしい食べ物があります。感性豊かで人情味あふれる人が暮らしています。

この、北塩原村が持つ多様な資源にまず【気づく】。そして、その気づきを元に、【学びたい】という想いを個々人が持ち、学んだ人同士が【つながり】、連携し協働することで北塩原村の【未来を築く】。このような未来につながるストーリーを一人でも多くの村民に抱いてもらいたい。

そのような想いから、本計画のキャッチフレーズを上記のように掲げ、生涯学習の推進に向けて各施策を展開していきます。



2 村が目指す生涯学習社会

近年、地域づくりや高齢者福祉の分野では「自助（じじょ）、互助（ごじょ）、共助（きょうじょ）、公助（こうじょ）」という言葉が使われています。

自分でできることはまず自分で（自助）、互いに手を取り合えばできることは互いで（互助）、社会の仕組みとしての支援が必要なことは社会で（共助）、そして最終的には行政が施策として取り組む（公助）、そしてそれらが相互に連携（地域一体となって取り組む）することで、住民の暮らしを豊かにする考えです。

本村が目指す生涯学習社会は、村民ニーズに応じた多様な生涯学習の機会や情報をより充実したものにするとともに、学習機会を享受するだけでなく、村民自ら学習機会を創り出し、個人の学習成果を地域社会に還元することで、やりがいや生きがいを持ちながら地域づくりに役立て、「村民力」や「地域力」の向上を目指すものです。

「村民力」や「地域力」のあるむらづくりに取り組むことができる生涯学習社会の実現に向け、地域住民、地域団体等や行政との連携・協働によって、継続的に生涯学習事業に取り組んでいきます。



3 基本方針

(1) すべての村民が“学べる”環境づくり

生涯学習は、個人や団体の主体的な活動が基本となります。これは、他から強制されるものではなく、自らの人生や生活上の必要性に基づく自発的な学習要求といえます。

すべての人が学べる社会とは、主体的な学習活動を行っている人のみならず、学ぶことに無関心な人や躊躇している人、学ぶことに支障・制約等があり学習活動へ踏み込めない人などへも扉が開かれている社会であると考えます。

村民だれもがアクセスしやすい学習機会となるよう、学習情報を提供する発信力の強化や既存施設の有効活用なども含め、学習環境の整備を進めていく必要があります。

多様な学習機会が確保された、すべての村民が学べる地域社会を目指します。



介護予防講演会



郷土史研究会による調査

(2) 学んだ成果を“活かせる”地域社会の実現

学習することによって自らの心を豊かにするだけでなく、その学習成果を地域社会へ還元していくことは、学習者にとって大きな喜びとなるものです。自らの学習成果が他の人々の役に立つことでやりがいも生まれ、さらなる学習への動機づけともなります。

村民アンケート調査の結果では、「学習や活動を今後おこないたい」と約8割が回答していますが、その活かし方については「自己の充実や自分の生活の改善に活用」などの個人に関する回答が多く、「行政区や地域団体での活動」や「ボランティア活動」に活用したいと回答した方は少ない傾向にあります。

「自助（じじょ）、互助（ごじょ）、共助（きょうじょ）、公助（こうじょ）」の理念のもと、生涯学習の成果を自己の充実のみならず、地域にも活かしたいという意識が高まる社会の実現のため、その仕組みづくりや成果を活用できる機会の拡充、さらには成果を活かそうとする学習者の意欲を育てることなども含めて、施策の一層の充実を図っていく必要があります。

学習成果を地域や社会で活かせる仕組みの構築に取り組み、学習成果を活用した活動を地域に広げるなど、つながりのある地域社会を目指します。



スポーツ民踊愛好会による慰問活動



KSB 虹彩コーラスによる文化祭での発表

(3) 地域の教育力向上と“つながる”地域社会の構築

学習を通じて生涯にわたって社会とつながり、ネットワークを広げていくことで、地域社会の活性化や教育力向上が期待されています。

また、様々な交流・連携を通じて村民や団体同士がつながることで、お互いを高め合い、学び合い、支え合うという関係性へ発展し、生涯学習による仲間づくりから地域づくりが進んでいくことも期待されます。

地域コミュニティの活性化や地域の教育力向上に向けた「つながる」施策として、学習による仲間づくりや交流の場の拡充、地域・学校・行政が連携・協働した事業の推進など、地域課題をともに解決するためのネットワークの構築に取り組んでいく必要があります。

地域・学校・行政との連携・協働により、地域課題の共有や解決に努めるとともに、地域の教育力を高め、学びを通じた地域づくり社会を目指します。



スポーツ吹矢愛好会による体験教室



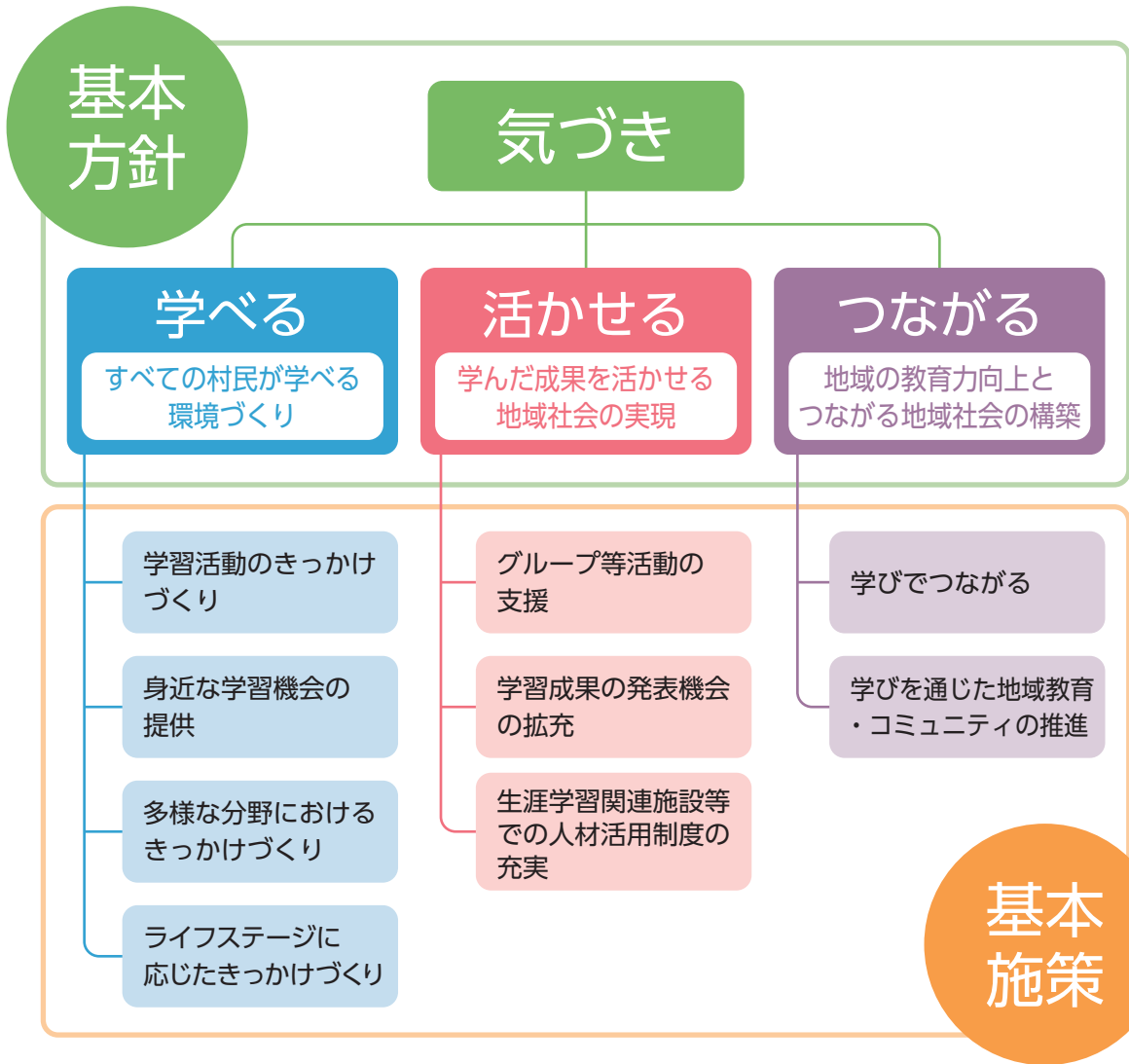
児童クラブでの将棋教室（学校の応援団）

4 施策展開分野の設定と体系図

第四次北塩原村生涯学習推進計画 キャッチフレーズ

気づきから 学び・つながり 未来を築く

～地域・学校・行政の協働による生涯学習社会の実現へ～



未来を築く

